

静岡市立長田南小学校(教頭)

曾根 祥治 先生 (生物学科1977年3月卒業
修士1979年3月修了)

『理学部生物学科はじまって以来の小学校教師／ 理学研究科第1回修了生』

概要: 私は大学院生として学ぶ中で、人の可能性や物事を考える道筋などに興味をもち、社会的な仕事、人間を相手にする仕事をしたいと思うようになりました。そのため修士修了と同時に玉川大学に入り直し、小学校教師をめざし現在に至っています。ほとんどの人に反対される中で、恩師の石川先生に「教育は小学校が一番大切だ。」と言われたことが大きな励みになりました。

小学校で取り組んだのは、理科教育と自由研究活動です。理科教育は指導法が中心になりますので、ここでは自由研究活動のみ紹介します。

1 子どもが問題意識を持つきっかけを見逃さない

授業から) ツバメの巣はなぜ落ちてこないか／スイカの種は実の中でなぜ発芽しないか／
梅ヶ島の水はきれいか／梅ヶ島の教育の始まり「ひげ先生」／秀吉の身長はどれぐらいか
生活の中から) 花粉の秘密／梅ヶ島の温泉は体にいいのか／スズムシは昼と夜がわかるのか
／青いトマトの秘密／お父さんの豆腐は日本一 など

2 ネタが大切である

(1) 子どもから学ぶ姿勢が大切。教師のネタはすぐ尽きる。(2) 子どもとの関わりがある見近なものが良い。(3) 子どもの手に負えるものを選ばせる。

3 解決の見通しを立てる

(1) ストーリーを考える。(2) 解決方法を考える(コレクター／比較／疑問の五連発からはじめる)。(3) 親の協力を得る。

4 子どもの追求を支える

(1) その子にあった追求の仕方。(2) 子どもの興味の継続。(3) 広げたり深めたりする(地域の先生や専門家との出会い)。(4) 子どもの新しい発見から新しい追求方法を考える。

5 まとめ方を指導する

(1) その子どもにあったまとめ方を指導する。(2) 粘り強く指導する。

これまで取り組んできて、一番の思いは「大人の疑問やネタはすぐ尽きてしまうが、子どもの疑問やネタは無限である」ということと、私にとって「大学での追求体験が大きな財産になっている」ということです。

曾根先生の卒研・修士の研究テーマは「ウシガエル輸卵管のプロゲステロン受容体」でした。

日時: 12月14日(木)

午後2時30分～4時00分

(時間変更しています)

場所: 理学部B212室

連絡先: 理学部生物学教室

塩尻 信義

電話 238-4780(内線4780)

メール sbnshio@ipc.shizuoka.ac.jp